

平成 25 年度（2013 年度）事業計画（案）

（はじめに）

公益財団法人に移行した鼓童文化財団は、2012 年 4 月より鼓童グループの組織改革により、株式会社北前船からの出向職員 6 人での運営形態から、専従職員 9 人の体制で新たなスタートを切った。

その初年度にあたる 2012 年度は、期の前半は経理・総務等の組織体制、事業分野ごとの運営体制と月次決算による財務体制の確立を図った。そして、期の後半は中長期的な視野に立ち、「新たな創業」をテーマに、当財団の社会的使命を議論し、2013 年度以降の事業を進める上での重点分野と運営体制をまとめた。（別紙 資料 No.1 参照）

2013 年度は、以下の分野に重点をおいて事業を進める。

（重点分野）

- ・ 鼓童の活動の原点である佐渡島の振興
 - ・ 鼓童と地域の未来を担う、人材の育成
 - ・ 鼓童名誉団員等の経験を活かした、伝統文化の継承と再創造に向けた研究と実践
 - ・ 上記の事業を通じた、国際交流の推進
- ※ これらの、重点分野を実施するにあたっては、各々の財務計画のもと企画運営を行う。

ア. 調査研究事業

郷土芸能の調査研究と資料収集、鼓童の映像資料、寄贈図書、レコード・CD の整理から始まった本事業は、近年では国・県・市や団体が募集する調査事業の受託により、地域振興に向けた研究と実践への取組みに広がっている。

また、調査研究の過程で出会った団体や地域の課題に取り組む活動への参加を通じて、地域の文化活動と地域づくり団体への支援と連携を深めている。

① 佐渡文化に関する調査研究および資料収集

- ・ 佐渡の鬼太鼓の記録

② 受託調査事業及び業務

- ・ 佐渡市「佐渡おこしチャレンジ事業」（主体：小木三崎百年プロジェクト協議会）

地域資源・遺産を活用した、地域住民参加の「着地型」「滞在型」観光による地域活性化の取り組み。

- ・ 農林水産省「食と地域の交流促進対策交付金」（主体：小木三崎百年プロジェクト協議会）

グリーンツーリズムの開発、廃校利用の検討、地域食材を活用した食の開発など、地域住民と共に交流事業を展開する。

- ・ 新潟県「小木直江津航路利用促進業務」

小木・直江津地区の住民の交流を促進し、両岸市民の主體的・持続的な取組による小木直江津航路の活性化・利用促進を図る。

③ 文化活動への支援

- ・ 小木三崎百年プロジェクト協議会
- ・ 小木三崎地域の伝統文化の保全と復活、個性ある風景づくり、及び地域資源の活用を行う目的で、旧小木町の地域団体により構成。
- ・ 深浦小学校校舎活用委員会
旧深浦小学校学区8集落の代表により構成され、閉校後の校舎の活用を推進する委員会。
- ・ 岬組
旧深浦小学校学区の小中学生及び卒業生を中心にして組織される太鼓グループ。
- ・ 小木湊まちなみの輪
佐渡小木湊（小木港と共に発展した地域）の歴史を活かしたまちづくりを促進し、地域活性化に寄与することを目的に活動を行う市民団体。

④ 東日本大震災被災地・郷土芸能復興支援活動

- ・ 陸前高田けんか七夕祭り復興の記録
- ・ 大船渡綾里地区五年祭への参加（予定）

⑤ アースファニチャー事業

- ・ 新潟県立佐渡高等学校の生徒ロッカー導入（予定）

⑥ 年次報告書および関連図書の刊行

⑦ 図書・音響映像資料の収集整理

イ. 研修事業

坂東玉三郎氏の芸術監督就任により、舞台づくりと連動するカリキュラム、講師の充実が求められることから、太鼓芸能集団「鼓童」、株式会社北前船のメンバー参加により、カリキュラムの再構築を行い、2014年度からの試行、2015年度からの本格導入を進める。

また、鼓童グループスタッフ、地域づくりスタッフの養成コースに向けたカリキュラムづくりと受け入れ態勢の整備を進め、2014年度からの試行、2015年度からの本格導入を進める。

① 伝統文化の再創造に関する研修および実践

- ・ 研修所 総合課程 伝統芸能の基本を学ぶ 4月～1月 約12名
- ・ 研修所 専門課程 演者、スタッフ志望別研修 2月～1月 約8名

② 地域づくりスタッフ養成コース

- ・ 開設に向けた準備

③ 観光プロデューサー養成事業（佐渡市受託予定）

※オ. アウトリーチ事業「佐渡特別公演」の欄に説明あり。

④ 旧深浦小学校の研修施設としての整備

ウ. 佐渡太鼓体験交流館事業

2013年4月～2015年3月にかけて、佐渡市の指定管理者としての第4期目の運営が始まる。

メインの業務である県内修学旅行生を対象とした太鼓体験は、好評を頂き定着しているが、時期が限定されている事と少子化の影響で今後参加人数の減少が予測されることから、閑散期のメニュー開発に取り組む。その手始めとして、3月に「佐渡塾」を開校。

また、本年の運営面での目標としては、この施設が建設された本来の目的である、地域に点在する体験施設や体験活動の結節点（ハブ）としての機能を充実させ、旅行業登録を機に開拓してきた旅行会社との関係を生かし、地域活性化に繋がる企画の充実を図る。同時に運営スタッフの育成を佐渡市の地域人材育成施策とも連動させながら進める。

① 佐渡太鼓体験交流館の運営

- ・ 太鼓体験、伝統料理教室、ミニコンサート、講演ほか
- ・ 佐渡塾（3月1日～3日） ～自分と向き合う3日間。アース・メディテーション～
- ・ 佐渡の地域活性化と観光振興

エ. アース・セレブレーション事業

25周年の節目の年を迎えた、アース・セレブレーション2012は、城山コンサートに延べ7,100名の来場を頂き、成功裡に終了した。鼓童の芸術監督として坂東玉三郎氏には3日間のコンサートを監修頂き、その経験から2013年に向けた様々な助言をいただいている。

その結果として、城山コンサートの演奏内容の充実と広報宣伝の推進を図る上での、プログラムとゲストを早期に決定するプロセスが整い始めており、今後は、鼓童の公演戦略との連動性を高めた、コンサート企画の充実が期待される。

また、2013年には、EC2012で取り組み好評をいただいた、佐渡の歴史や自然に触れていただく企画の充実を図ると同時に、佐渡の芸能を紹介する企画を更に充実させて行きたいと考えている。

その他、運営の推進役である事務局機能への佐渡市の関わりを拡充させ、これまでの観光商工課に加えて市庁内の各部署から構成される委員会を設けて、様々な行政施策との連携と協力体制を構築する。

① 国際芸術祭「アース・セレブレーション（EC）」の実施

- ・ コンサート
8月23日（金） 鼓童「打男 DADAN」ECスペシャル 演出：坂東玉三郎
8月24日（土） 「創世」上妻宏光 with 鼓童
8月25日（日） 「祝祭」鼓童、上妻宏光、マーティン・グルービンガー
- ・ ワークショップ、展示、フリンジほか

オ. アウトリーチ事業

鼓童が培って来たノウハウを体現する鼓童名誉団員をはじめとするメンバーと共に、新たな創造や普及に繋がる実験的なパフォーマンスやワークショップを通じた活動を進めると共に、その運営スタッフの充実を図る。

また、外部団体、専門家との協働により、そのノウハウの応用、社会貢献に向けた研究活動を行う。

① 公演、ワークショップ、講演、シンポジウムなどの開催

- ・ 文化庁文化交流使事業

藤本吉利（中国）、小島千絵子（スペイン、ベルギー、イギリス）

※文化庁が芸術家、文化人、研究者等、文化に携わる人々を一定期間「文化交流使」に指名し、日本文化紹介活動を展開することにより、我が国の文化的イメージの向上と諸外国との文化人や芸術家間ネットワーク形成を強化することを目指す事業。

- ・ セスク・ジェラベル（スペインを代表する現代舞踊家）＋小島千絵子のコラボレーション（スペイン・バルセロナほか）
- ・ 丸の内朝大学／鼓童塾（齊藤栄一）
- ・ 一管風月（山口幹文）
- ・ ヴォイスサークル（藤本容子）
- ・ 出前公演（藤本吉利）
- ・ 研修生と島内中学生の交流公演

② 鼓童 佐渡特別公演

2012年に春、夏、秋と行い好評をいただいた公演を、2013年は春と夏に宿根木公会堂を会場に開催する。この公演がきっかけとなり、佐渡市では街並み景観整備地区事業を立ち上げて、下記の事業を行うことになり、当財団がその推進に積極的に関わる。

ハード事業：宿根木公会堂内部改修により、公会堂での地元芸能、鼓童等の公演に併せて、伝統食の提供、地元の特産品の販売を進め、会場となる宿根木を着地型ツアープランのモデル地区として造成。

ソフト事業：個人向け観光のプロデューサーを養成し、小木地区に点在する着地型ツアーを統括。

③ 佐渡の医療機関との協働による、伝統文化と医療介護を融合させた学習プログラムの開発

佐渡の医療法人汐彩病院医院長から提案いただいているプロジェクト。

太鼓芸能を通じた理学療法、作業療法、言語療法、健康スポーツに融合させた研究と実践を、それぞれの分野の専門家と協働で行う。